

KDreader for Windows 簡易マニュアル



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

概要

ベクターデータとラスターデータを表示するビューアソフトです。
ベクターデータは、イメージに展開せずベクター表示します。

特長

【入力】

- ・以下のベクターデータの表示に対応しています。
HP-GL, HP-GL/2, OFI, GERBER, DXF, DWG
Galcomp907/925, Dscan, Drastem, VCGL, VRF
ベクターデータはイメージに展開せず、ベクターで表示します。
- ・国内外で広く利用されているラスター(イメージ)データの表示に対応しています。

【ベクターデータについて】

- ・ペン番号、色番号による線幅、色(カラー出力時のみ)の設定が可能です。
- ・HP-GL/2, OFI データのラスター/ベクター混在データをサポートしています。
- ・CAD データ (DXF, DWG) の読み込みには複数の制限があります。
- ・標準 GERBER (RS-274D)、拡張 GERBER データ (RS-274X) をサポートしています。
アパーチャデータの指定が可能です。

【表示】

- ・入力データのサイズ情報をミリメートル(mm)で表示します。
- ・複数の入力データを必要に応じて同時に表示することができます。(マルチウィンドウ対応)

【印刷】

- ・表示データの印刷が可能です。
- ・自動印刷処理(表示画面無し)が可能です。
指定フォルダを監視してファイルを認識すると自動的に印刷します。

【データ処理】

- ・ベクターデータについてはプログラムに拡張子を登録することにより認識します。
ラスターフォーマットデータは自動認識します。
- ・モノクロ/カラー双方のデータ形式の表示に対応しています。
- ・マルチページの表示に対応しています。
- ・全体表示、マウスドラッグによる拡大・縮小表示を行うことができます。
- ・スクロールバーによる画面移動を行うことができます。
- ・表示データの回転(90度単位)を行うことができます。

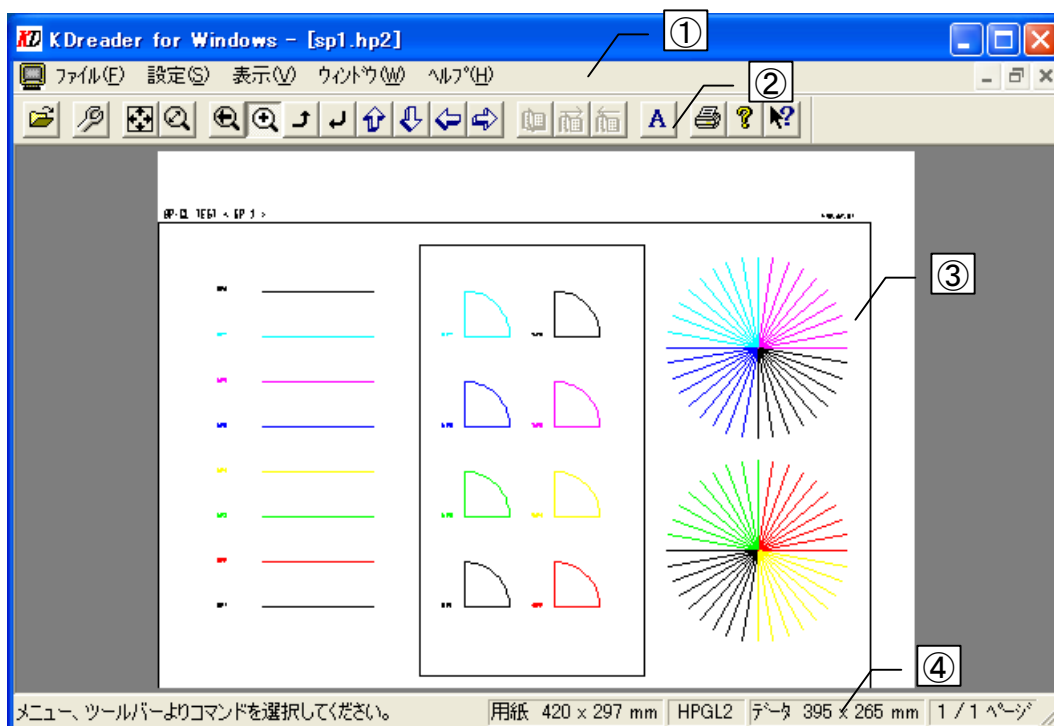
【その他】

- ・API を利用してその他のアプリケーションから呼び出すことが可能です。
- ・プログラムを起動してウィンドウエリアにファイルをドラッグ&ドロップすることで表示できます。
デスクトップ上にプログラムのショートカットを作成しドラッグ&ドロップすることで表示できます。
ファイルの種類(拡張子)からの起動プログラムに指定することでファイルをクリックするだけで表示することができます。
- ・OLE 機能を利用して MS-Word, MS-Excel に表示データの貼り付けが可能です。

動作環境

- ・ Windows 2000
- ・ Windows XP
- ・ Windows Vista
- ・ Windows 7

基本画面



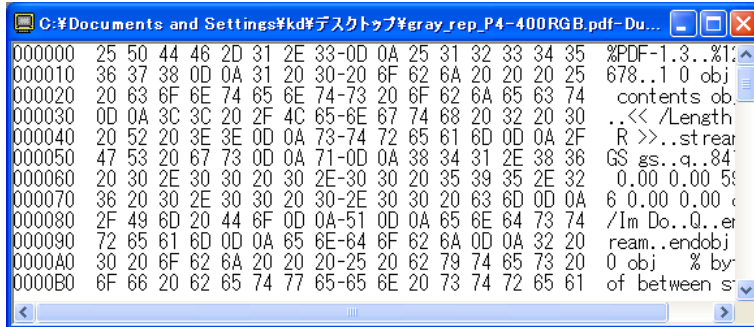
- ① メニュー
選択されたメニューを実行します。
- ② ツールバー
頻繁に使用するメニューをボタン形式で表示しています。
- ③ イメージビュー
画像ファイルから読み込んだ画像データが表示されます。
- ④ ステータスバー
現在の状態を表す情報が表示されます。

メニュー

1. ファイルメニュー

【開く】

既存の図面を開きます。
一度に複数の図面を開くことができます。
複数の図面の編集を切り換えるには、
[ウィンドウ]メニューの【ウィンドウ名 1, 2, 3...】
コマンドを使ってください。認識できないファイル等のエラー発生時は、
下記のデータダンプを表示します。



```
C:\Documents and Settings\kd\Desktop\gray_rep_P4-400RGB.pdf-Du...
000000 25 50 44 46 2D 31 2E 33-0D 0A 25 31 32 33 34 35 %PDF-1.3..%1
000010 36 37 38 0D 0A 31 20 30-20 6F 62 6A 20 20 20 25 678..1 0 obj
000020 20 63 6F 6E 74 65 6E 74-73 20 6F 62 6A 65 63 74 contents ob
000030 0D 0A 3C 3C 20 2F 4C 65-6E 67 74 68 20 32 20 30 ..<< /Length
000040 20 52 20 3E 3E 0D 0A 73-74 72 65 61 6D 0D 0A 2F R >>..strear
000050 47 53 20 67 73 0D 0A 71-0D 0A 38 34 31 2E 38 36 GS gs..q..84
000060 20 30 2E 30 30 20 30 2E-30 30 20 35 39 35 2E 32 0.00 0.00 5
000070 36 20 30 2E 30 30 20 30-2E 30 30 20 63 6D 0D 0A 6 0.00 0.00
000080 2F 49 6D 20 44 6F 0D 0A-51 0D 0A 65 6E 64 73 74 /Im Do..Q..er
000090 72 65 61 6D 0D 0A 65 6E-64 6F 62 6A 0D 0A 32 20 ream..endobj
0000A0 30 20 6F 62 6A 20 20 20-25 20 62 79 74 65 73 20 0 obj % by
0000B0 6F 66 20 62 65 74 77 65-65 6E 20 73 74 72 65 61 of between s
```

【名前を付けて保存】

現在開いている図面を別名称にて保存します。(複写と同等処理)

【書き出し】

現在開いている図面をメタファイル、拡張メタファイル形式にて保存します。

【閉じる】

現在開いている図面を閉じます。

【印刷】

図面を印刷します。

【プリンタの設定】

プリンタの選択や接続を設定します。

【ファイル名 1, 2, 3...】

以前、開いた図面を開きます。([ファイル]メニューの下部には、直前に閉じたファイル名が
番号とともに最大4つまで表示されます。ここから目的のファイルを選択して開くことができます。)

【終了】

KDreader for Windows を終了します。

ファイル(F)	設定(S)	表示(V)	ウイ
開く(O)...			Ctrl+O
名前を付けて保存(A)...			Ctrl+A
書き出し(W)			
閉じる(C)			
印刷(P)...			Ctrl+P
プリンタの設定(R)...			
1 sp1.hp2			
終了(X)			

2. 設定メニュー

設定(S) 表示(V) ウィンドウ

情報設定(S)...

自動印刷設定(P)...

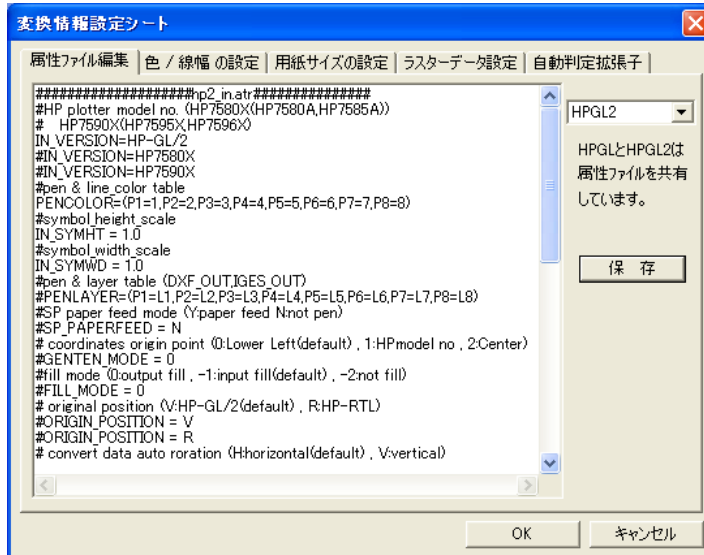
【情報設定】

属性ファイル、色情報、用紙サイズ等の設定を行います。

◇属性ファイル編集

各フォーマット図面の入力属性を変更します。

ここで行った変更は、次回の読み込み時より有効となります。



◇色 / 線幅 の設定



・ カラーテーブル設定

画面に表示する色の変更を行います。

各表示色の部分をマウスでクリックすればカラー変更ダイアログが表示されますので、

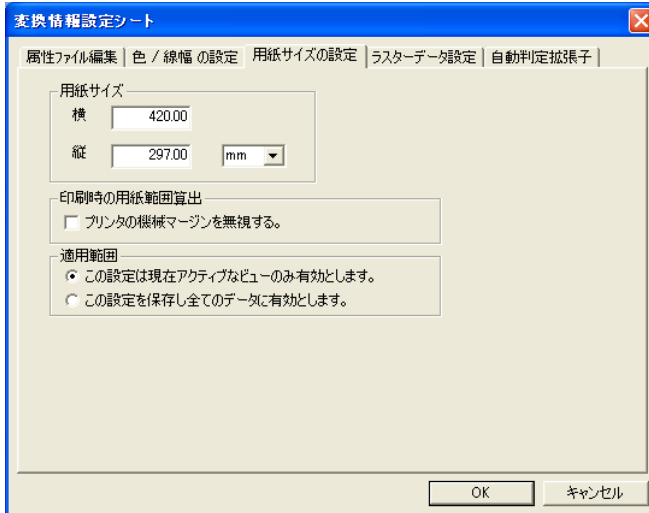
任意の色を選択してください。ここで変更した色は全ての図面に反映されます。

カラーテーブルを初期状態に戻す場合は初期化ボタンをクリックしてください。

・ 色 -> 線幅変換設定

[色 -> 線幅(mm)変換を行う]を有効にすることで、線幅の値を持たないデータに対して色を線幅に置き換えて表示します。線幅の指定のあるデータは、この設定値は全て無効となります。

◇用紙サイズの設定

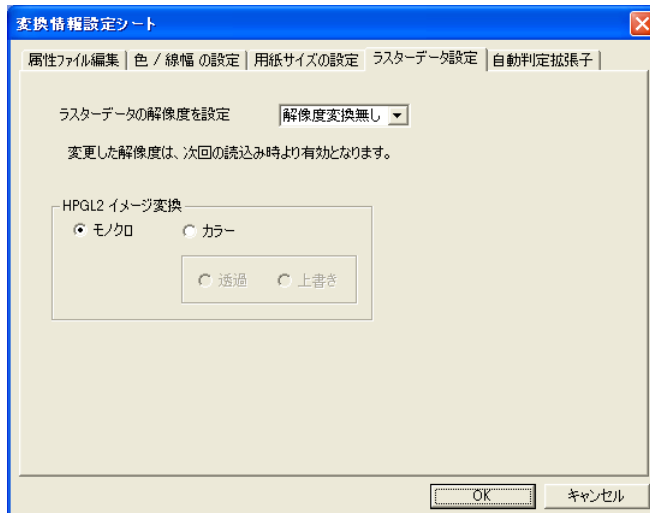


図面を表示する用紙枠のサイズを変更します。

○適用範囲

- ・この設定は現在アクティブなビューのみ有効とします。
変更した用紙サイズは保存されずに現在アクティブな図面のみ用紙サイズが変更されます。
- ・この設定を保存し全てのデータに有効とします。
変更した用紙サイズが現在読み込まれている図面及び今後読み込む全ての図面に対して有効となります。

◇ラスターデータ設定



○ラスターデータの解像度を設定

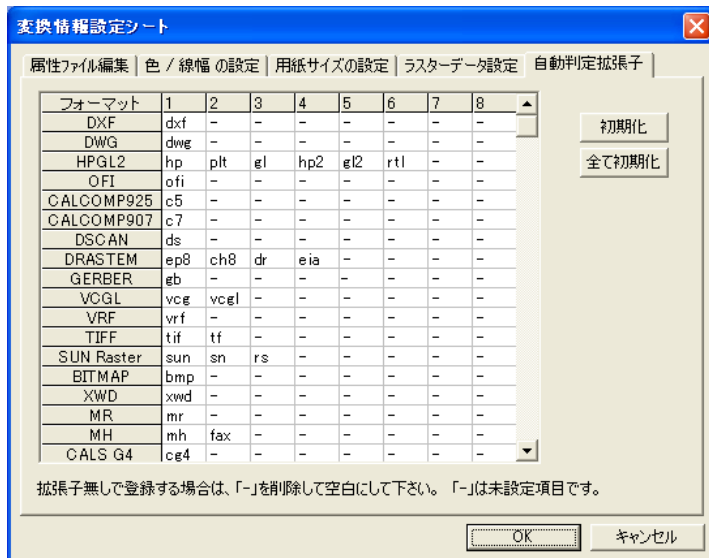
ラスターデータの読み込み時の解像度を設定します。
「解像度変換無し」を選択するとデータ本来の解像度にて読み込みます。
※解像度を上げるとデータの処理(読み込み、描画)速度が遅くなります。

○HP-GL/2 イメージ変換

HP-GL/2 データがベクター・ラスター混在している場合には、ラスターデータへ変換してから表示しますが、その際のラスターへの変換形式を指定します。

- ・モノクロ
モノクロ形式のラスターへ変換してから表示します。
- ・カラー(透過)
カラーのラスターへ変換する際に重なり部分を透過モードで変換してから表示します。
- ・カラー(上書き)
カラーのラスターする際に上書きモード(後描き優先)に変換して表示します。
※HP-GL/2 のデータ順に変換します。
データ順によっては、ベクターデータ→ラスターデータの順で描画領域が重複している場合は、図の一部が欠ける(もしくは消える)場合があります。

◇自動判定拡張子

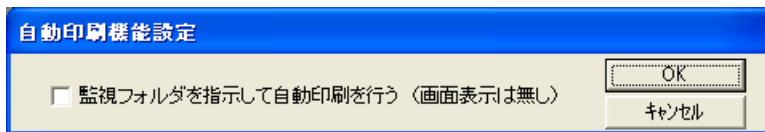


自動判定処理にて使用する拡張子を設定します。
各フォーマットで、最大 8 個の拡張子を指定できます。
指定できる文字数は、4 文字までです。

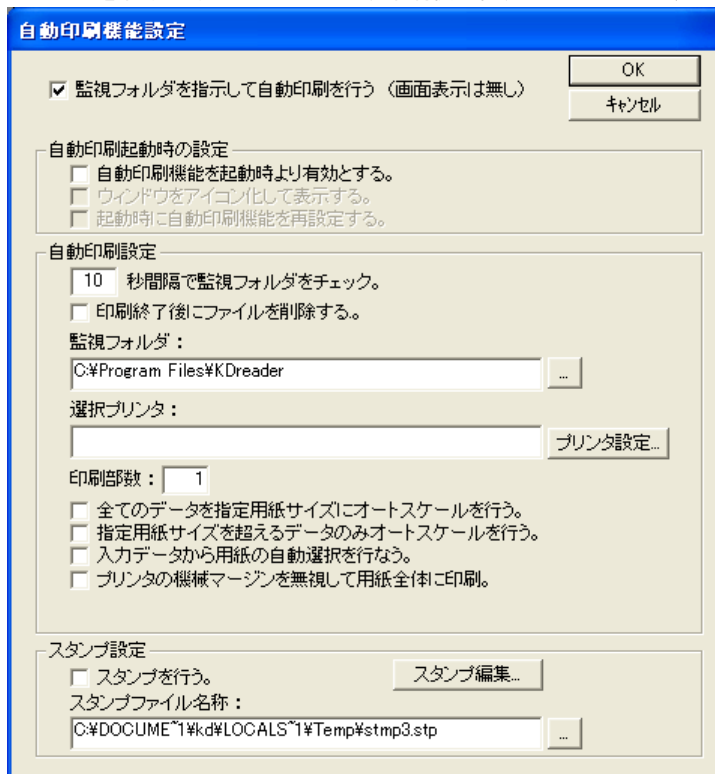
- ・初期化
ボタンをクリックすると現在カーソルのあるフォーマットの変更をインストール時に戻します。
- ・全て初期化
ボタンをクリックすると全ての拡張子を元に戻します。

【自動印刷設定】

データの画面表示を行わずに、指定フォルダ内にあるデータを全て印刷します。
※OLE サーバーとして使用中は、自動印刷機能は停止状態となります。



- ・監視フォルダを指示して自動印刷を行う
チェックを有効にすると下記の自動印刷機能設定ダイアログが表示されます。



○自動印刷起動時の設定

- ・自動印刷機能を起動時より有効とする。
この設定を有効にすると、次回のKDreader 起動時より自動印刷モードで動作します。
- ・ウィンドウをアイコン化して表示する。
「自動印刷機能を起動時より有効とする。」の設定を行った場合に選択可能となります。
KDreader をアイコン化して表示します。
- ・起動時に自動印刷機能を再設定する。
「自動印刷機能を起動時より有効とする。」の設定を行った場合に選択可能となります。
次回起動時に、当ダイアログを表示します。
初回印刷を行う前に、自動印刷設定を変更できます。

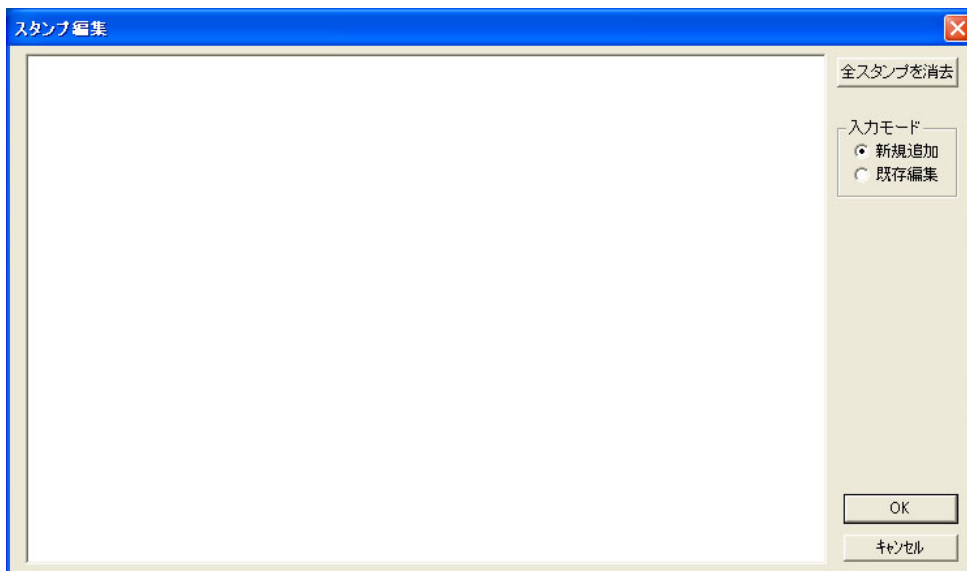
○自動印刷設定

- ・「」秒間隔で監視フォルダをチェック。
印刷監視フォルダのチェック間隔を、秒単位で指定します。
- ・印刷終了後にファイルを削除する。
監視フォルダの印刷が終了した後、フォルダ内のファイルを削除するかどうかを指定します。
チェックを有効にした場合は、印刷後にファイルを削除します。
チェックを無効にした場合は、指定フォルダの下に(EndPrint)フォルダを作成しファイルを移動します。
- ・監視フォルダ
監視フォルダを指定します。右横の『ブラウザボタン』から参照できます。
- ・選択プリンタ
プリンタドライバを指定します。
- ・プリンタ設定
プリンタドライバの選択、及び設定を行います。
- ・印刷部数
印刷部数を指定します。
- ・全てのデータを指定用紙サイズにオートスケールを行う。
チェックを有効にした場合、プリンタ設定ダイアログで指定した用紙サイズに、
オートスケールを行って印刷します。(用紙いっぱいには拡大・縮小されます)
- ・指定用紙サイズを超えるデータのみオートスケールを行う。
チェックを有効にした場合、プリンタ設定ダイアログで指定した用紙サイズを超えるデータのみ、
オートスケール(用紙いっぱいには縮小)を行って印刷します。
用紙サイズをオーバーしないデータは、そのまま印刷します。
- ・入力データから用紙の自動選択を行う。
チェックを有効にした場合、データサイズから用紙サイズ(データサイズに最も近いサイズ)を
自動選択して、印刷を行います。
- ・プリンタの機械マージンを無視して用紙全体に印刷。
チェックを有効にした場合、データサイズから用紙サイズを自動選択して、印刷を行います。

○スタンプ設定

- ・スタンプを行う。
チェックを有効にした場合、スタンプを指定位置に合成し、印刷を行います。
- ・スタンプファイル名称
スタンプデータを保存/参照する『スタンプデータファイル』を指定します。
右横のブラウザボタンから、参照することもできます。
- ・スタンプ編集
スタンプ編集ダイアログを開き『スタンプファイル名称』で指定した
スタンプデータファイルをロードします。
『スタンプファイル名称』が、新規ファイルを示している場合は、
直前にロードしたスタンプデータを、初期データとして引用します。

【スタンプ編集】ダイアログ
スタンプデータの編集を行います。



- 全スタンプを消去
ロードされた全スタンプを消去します。(スタンプデータの有無に関わらず機能します。)

- 入力モード
 - ・新規追加
新規にスタンプを追加します。
追加したい位置にカーソルを移動し、マウス左ボタンをクリックするとテキストスタンプダイアログが開きます。
必要事項を設定することで、指定位置にテキストスタンプを配置します。

 - ・既存編集
配置されているスタンプのテキスト変更・位置補正など、設定内容の編集を行います。
編集したいテキストにカーソルを移動し、マウス左ボタンで指定します。指定に成功した場合は、テキストの周囲を囲む枠が表示されます。そのままドラッグすると、スタンプ位置を変更できます。
この状態で『Del』キーを押すと、スタンプを削除できます。
また、マウス左ボタンでダブルクリックした場合は、テキストスタンプダイアログが表示され、設定内容を再編集できます。

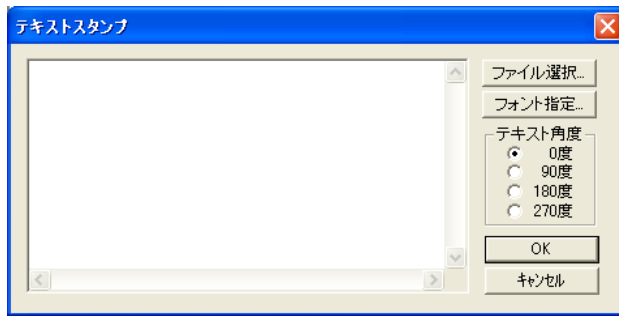
- スタンプウィンドウ
このウィンドウは、A版サイズ用紙の縦横比率を模しています。
実出力用紙の縦横比率によっては、配置したスタンプが、意図しない位置に印字される可能性があります。

- スタンプデータの保存
 - ・OK
指定したスタンプファイルに、スタンプデータが保存されます。

 - ・キャンセル
編集内容は保存されません。

【テキストスタンプ】ダイアログ

テキストスタンプデータの、詳細設定を行います。



○ファイル選択

ブラウザを起動し、テキストファイルを選択します。
指定されたファイルからテキストを読み込み、テキストボックスに表示します。

○フォント指定

Windows 標準のフォント設定ダイアログを開きます。
スタンプ配置時に用いるフォントの、名称・色・大きさ等を設定します。

○テキスト角度

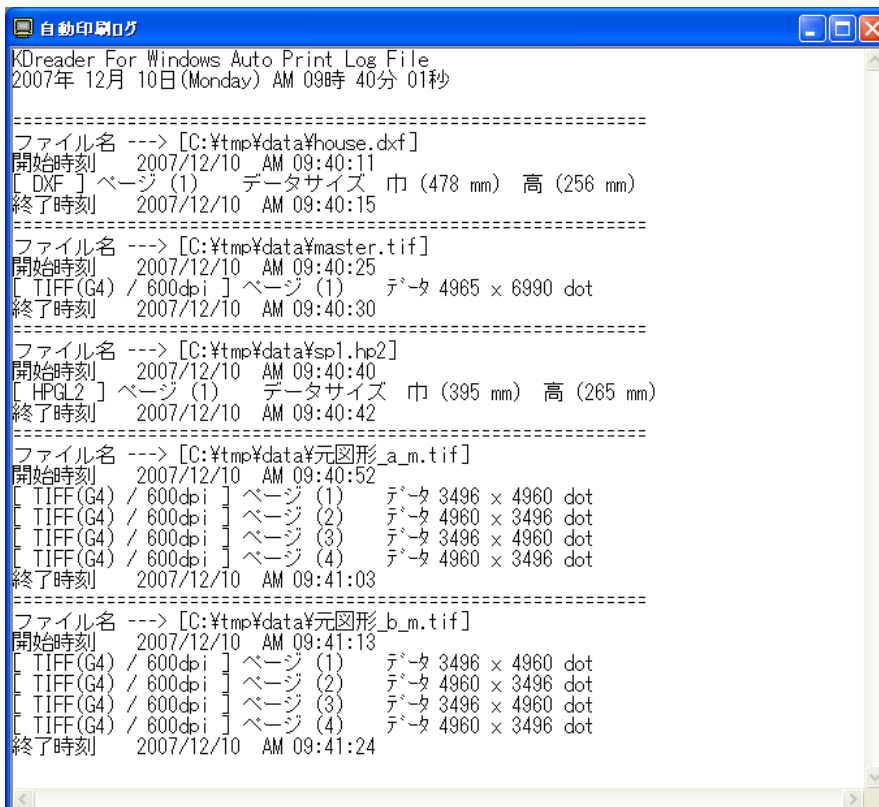
テキストの配置角度を指定します。
回転時の原点は、0度を基準として『テキストの左上』となります。
配置しようとする位置によっては、回転により用紙範囲外に飛び出してしまう場合がありますので、注意が必要です。

○設定内容の保存

- ・ OK
設定内容を保存します。
- ・ キャンセル
設定内容は保存されません。

【印刷ログ】

自動印刷実行時には下記の様な印刷ログウィンドウを表示します。



※印刷用紙への図面配置は、用紙長辺とデータ長辺を合わせるように行います。

3. 表示メニュー

表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ°
ウィンドウサイズ切替え(W) 図面全体表示(A)
初期表示(V) 拡大表示(M) 回転 [CCW](C) 回転 [CW](Z) 上移動(U) 下移動(D) 左移動(L) 右移動(R)
テキストスタンプ(T)
ページ指定(P)... 次ページ(N) 前ページ(B)
✓ ツールバー(T) ✓ ステータスバー(S)

【ウィンドウサイズ切り換え】

ウィンドウの表示方法を「用紙/全体」へ切り換えます。
図面の表示枠を「用紙サイズ/ウィンドウ全体」と切り換えます。

【図面全体表示】

データの表示方法を用紙枠全体または実寸へ切り換えます。
図面の表示を実寸表示するか表示枠いっぱい図面全体が収まる様に自動スケーリングして表示を行うかを切り換えます。

【初期表示】

拡大・移動した図面の表示を元に戻します。
「拡大/移動」された画面を最初の表示状態に戻します。「回転」は戻りません。

【拡大表示】

図面を対角 2 点指示で拡大します。

【回転 (CCW)】

図面を反時計回りに 90 度回転させます。

【回転 (CW)】

図面を時計回りに 90 度回転させます。

【上移動】

図面を上方向へ移動させます。
[図面全体表示]が有効となっている場合は、選択できません。

【下移動】

図面を下方向へ移動させます。
[図面全体表示]が有効となっている場合は、選択できません。

【左移動】

図面を左方向へ移動させます。
[図面全体表示]が有効となっている場合は、選択できません。

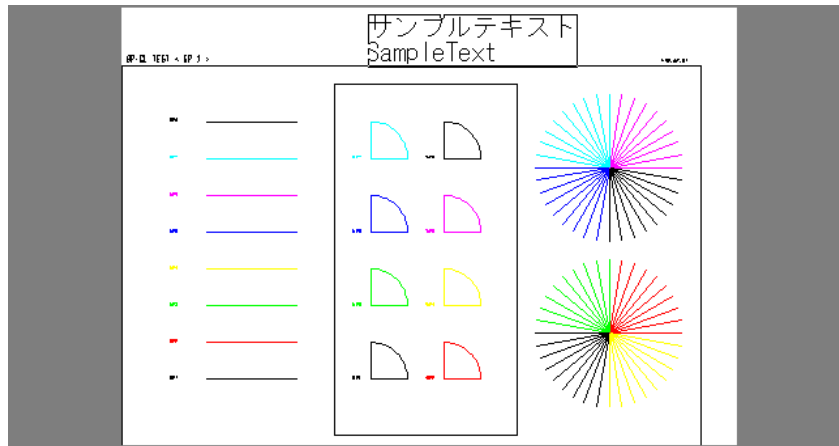
【右移動】

図面を右方向へ移動させます。
[図面全体表示]が有効となっている場合は、選択できません。

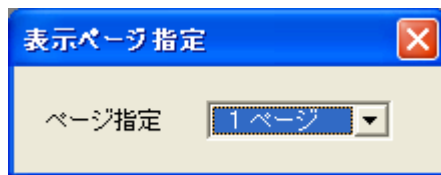
【テキストスタンプ】

テキストスタンプの配置/編集を行います。

テキストスタンプ例



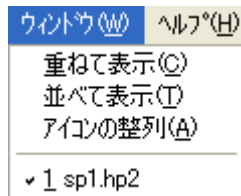
- ◇ページ指定
複数ページから構成されている図面の表示ページを切り換えます。



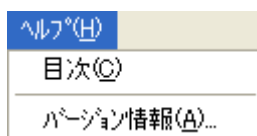
- ◇次ページ
図面の表示ページを1ページ進めます。
図面が複数ページから構成されている場合に選択可能となります。
複数ページある図面の表示ページを1ページ進めます。最終ページの場合は、選択できません。

- ◇前ページ
図面の表示ページを1ページ戻します。
図面が複数ページから構成されている場合に選択可能となります。
複数ページある図面の表示ページを1ページ戻します。先頭ページの場合は、選択できません。

4. ウィンドウメニュー



5. ヘルプメニュー



ツールバー



A: 既存のデータを開きます。『開く』ダイアログからファイルを選択します。

B: 『情報設定』ダイアログを開きます。

C: 図面の表示サイズの基準を『用紙サイズ/ウィンドウ全体』で切り換えます。

D: 図面の表示を『実寸』で行うか、画面全体が収まるよう『自動スケーリング』するかを切り換えます。

E: 『拡大/移動』された図面を初期表示状態に戻します。※『回転』は元に戻りません。

F: 対角2点による範囲指定で図面を拡大表示します。

G: 図面を反時計回りに90°回転します。

H: 図面を時計回りに90°回転します。

I: 図面を上方向に移動します。※1

J: 図面を下方向に移動します。※1

K: 図面を左方向に移動します。※1

L: 図面を右方向に移動します。※1

M: 図面の表示ページを指定します。※2

N: 表示ページを1ページ進めます。※2

O: 表示ページを1ページ戻します。※2

P: 『テキストスタンプ設定』ダイアログを開きます。

Q: 図面を印刷します。

R: アプリケーションのバージョン情報を表示します。

S: 指定コマンドのオンラインヘルプを表示します。

※1: 『図面全体表示』を行っている場合は、選択できません。

※2: 図面がマルチページで構成されている場合に、選択できます。

サポートフォーマット

- ・ベクターフォーマット
 - DWG
 - DXF
 - HP-GL
 - HP-GL/2
 - Drastem
 - Dscan
 - Calcomp907
 - Calcomp925
 - OFI
 - VCGL
 - VRF
- ・ラスターフォーマット
 - TIFF (非圧縮, PackBits, G3-1D, MH, MR, MMR, LZW)
 - XWD
 - BMP (非圧縮)
 - MR
 - MH
 - MIE-L
 - JPEG
 - SunRaster
 - IOCA
 - NSXPRESS (G3, G4)
 - PCX
 - FX-Raster
 - TOSFILE (MH, MR, MMR)
 - GIF

制限事項

- ・HP-GL/2 イメージ変換の【カラー】選択時、「透過」、「上書き」で対応できる用紙サイズは、最大 A0 までです。また、変換に時間がかかる場合があります。
- ・カラーデータを表示する場合、モノクロデータの表示と比べて制限があります。
- ・マルチページを表示する場合、シングルページの表示と比べて制限があります。ページ数の多いマルチページデータは表示できない場合があります。